

令和8年度 2年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
地理歴史	歴史総合	2	2	普通科

使用教科書	副教材等
現代の歴史総合 みる・読みとく・考える (山川出版社)	新詳歴史総合 (浜島書店)

科目の目標
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。
② 思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

評価方法

各種テスト 授業ノート・プリント類の記述 提出物の取り組み状況

学習計画

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	歴史の扉	①歴史と私たち 現代の私たちと旅	①身近な事柄が、時間的な推移や空間的な結びつきのなかで歴史と結びつきをもっていることを理解する。 ②私たちの生活に関わる制度や習慣について分析する際に、歴史的に構築されていることをふまえることが大切であることを理解する。	○		○
		②歴史の特質と資料 歴史資料とは何だろうか	①資料にもとづいて歴史が叙述されていることを理解する。 ②資料の性格をふまえ批判的に読みとることについて理解する。	○		○
5	第I部 近代化と私たち	1 交通と貿易 2 移民 3 学校教育 4 労働と家族 5 産業と人口 6 権利意識と政治参加、国民の義務	「交通と貿易」「移民」「学校教育」「労働と家族」「産業と人口」「権利意識と政治参加、国民の義務」についての諸資料を活用して、情報を読みとったりまとめたりする技能を習得し、人々の生活や社会のあり方が近代化にともない変化したことについて考察するための問いを表現する。	○	○	○
	第1章 結びつく世界と日本の開国	1 18世紀の東アジアにおける社会と経済	①中国で手工業や技術の発展がみられるなか、輸送網と金融システムの展開によって活発な商取引がおこなわれていたことを理解する。②中国と日本の商品生産と流通を対比して、それぞれの経済発展や社会の姿容について考察する。③幕藩体制のしくみとその特徴について理解する。④大坂を中心とした遠隔地海運が発展し、各種の商品生産が発展したことを理解する。	○	○	○
		2 貿易が結んだ世界と日本	①アジア域内貿易がどのようにおこなわれていたかを理解する。②18世紀の中国がアジア域内貿易や貿易を通じて、欧米諸国とどのように結びついていたのかを理解する。③18世紀の日本がどこを結節点として、どのような形で世界と結びついていたのかを理解する。	○		○
		3 産業革命	①産業革命がなぜイギリスから始まったのかを理解する。②産業革命が当時の人々の生活や社会におよぼした変化を理解する。③産業革命がイギリス以外に普及した過程と、国によってその様相が異なっていたことを理解する。④産業革命によって加速した世界の一体化が、どのように進み、どのような影響をおよぼしたのかを理解する。	○		○
		4 中国の開港と日本の開国	①欧米諸国が東アジアに勢力を拡大した理由と、開港場の増加や貿易制限の緩和など中国の外交政策の転換について理解する。②日本でも「鎖国」政策の転換をせまられ、貿易を開始したことがその後の政治に与えた影響について理解する。③中国の開港・日本の開国と産業革命との関係、および従来の東アジア地域間の貿易や人・情報の流れの姿容について考察する。	○	○	○

6

第2章 国民国家と明治維新	1 市民革命	①アメリカ独立革命が1つの市民革命であったことを理解する。②フランス革命のなかでめざされた様々なことについて理解する。③ナポレオンの台頭とフランス革命の関係について理解する。④アメリカ独立革命とフランス革命が世界各地に与えた影響について理解する。	○	○
	2 国民国家とナショナリズム	①ヨーロッパ諸国が国家統一や改革へ乗り出した背景について理解する。②国民国家の特徴について身分制国家などと対比して理解する。③オスマン帝国とガージャール朝における改革の動きについて理解する。④独立後のアメリカ合衆国における国家統一の経緯について理解する。⑤独立後のラテンアメリカ諸国における社会の問題点を理解する。	○	○
	3 明治維新	①日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などをもとに、立憲体制と国民国家の形成について理解する。②国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを考察する。	○	○
	4 日本の産業革命	①産業革命の成功国との自由貿易にともなう、日本の産業界の変容と再編の過程について理解する。②近代産業発展の基盤となる政府の金融・貨幣制度の整備、および情報伝達や交通網の整備を含む殖産興業政策について理解する。③紡績業と製糸業の特徴と相違点、経済発展に果たした役割について理解するとともに、民間産業の成長と財閥の成立要因、および産業革命成立との関連について考察する。	○	○
	5 帝国主義	①欧米諸国による植民地化の背景や経緯について理解する。②帝国主義が西アジアや中央アジアにどのような変化をおよぼしたのかについて理解する。③帝国主義が南アジアや東南アジアにどのような変化をおよぼしたのかについて理解する。	○	○
	6 変容する東アジアの国際秩序	①明治維新後の日本が、外交交渉や国境の画定を通して、欧米諸国と対等な主権国家、国民国家の形成をめざしたことについて理解する。②朝鮮の近代化がどのような国際関係のもとで進み、日本や清・ロシアなどの周辺国がどのように対応したかについて理解する。③日清戦争の勝利が、朝鮮・日本・中国などの東アジアの国際秩序に与えた影響について考察する。	○	○

7

7 日露戦争と東アジアの変動	①日清戦争後の欧米列強や日本の勢力拡大に対する、清や朝鮮の政府や民衆の動向について理解する。②日露戦争後の日本の動向、および韓国の植民地化など東アジアをめぐる国際関係の変容について理解する。③日露戦争後、辛亥革命に至る中国の民族運動と近代化の動向について理解する。	○	○
----------------	--	---	---

近代化と現代的な諸課題	1 開発・保全2 対立・協調3 自由・制限	近代化の歴史に存在した「開発・保全」「対立・協調」「自由・制限」に関する課題について諸資料を活用して考察し、それらが現代的な諸課題の形成にどのように関わっているのかについて理解する。	○	○
-------------	-----------------------	---	---	---

第II部 国際秩序の変化や大衆化と私たち	1 20世紀の国際関係の緊密化2 アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭3 植民地の独立4 大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化5 生活様式の変化	「20世紀の国際関係の緊密化」「アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭」「植民地の独立」「大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化」「生活様式の変化」についての諸資料を活用して、情報を読みとったりまとめたりする技能を習得し、人々の生活や社会のあり方が大衆化にともない変化したことについて考察するための問いを表現する。	○	○
----------------------	---	--	---	---

9

第3章 総力戦と社会運動	1 第一次世界大戦の展開	①第一次世界大戦がなぜ最初の「大戦」となったのかを理解する。②第一次世界大戦と日本の関わりについて理解する。③第一次世界大戦にアメリカ合衆国がどのように関わっていたのかを理解する。④第一次世界大戦にかわされた秘密外交を含む外交関係の内容と、その問題点について理解する。⑤第一次世界大戦中に各国でとられた総力戦体制の内容とその影響について理解する。	○	○
	2 ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭	①ロシア革命の経過、および「土地に関する布告」「平和に関する布告」などからわかるボリシェヴィキ政権の性格を理解する。②コミンテルンの設立と、それに応じた諸外国の反応を理解する。③対ソ干渉戦争からの経済政策の変化、およびスターリン政権の性格について理解する。④第一次世界大戦後のアメリカ合衆国の国際的地位の上昇とアメリカ国内の考え方の差異について理解する。	○	○
	3 ヴェルサイユ体制とワシントン体制	①ヴェルサイユ条約の内容（国際連盟の設立・ドイツの賠償）、およびその結果としてのドイツの状況について理解する。②ワシントン会議で締結された3つの条約（ワシントン海軍軍備制限条約・四カ国条約・九カ国条約）の内容、およびアメリカ合衆国の意図について理解する。③日本が協調外交を推進した意図および軍部の反発について理解する。	○	○
	4 世界経済の変容と日本	①第一次世界大戦直前の日本で、貿易赤字など国際収支の危機が続いた理由について理解する。②第一次世界大戦がアジア市場に与えた影響、およびアメリカ合衆国が世界の経済的中心に移行したことについて理解する。③1920年代の日本では恐慌が連続して、そのなかで積極財政と緊縮財政の双方がおこなわれたことについて理解する。	○	○
	5 アジアのナショナリズム	①第一次世界大戦後に高揚した朝鮮半島や中国のナショナリズムのあり方やその相違点について理解する。②ナショナリズムが高揚した時期の、中国やインドの経済的・社会的変容について理解する。③インドや西アジア諸地域のナショナリズムの特色とその展開について理解する。	○	○
	6 大衆の政治参加	①欧米諸国において、工業化の進展により労働運動や社会主義運動が広がり、第一次世界大戦を機に参政権が拡大したことについて理解する。②日本では、大正デモクラシーの進展を受け、2度の憲政増進運動（護憲運動）を経て政党内閣が成立したことについて理解する。③大正期におきた様々な社会運動の特徴と変容、および政府の対策について理解する。	○	○
	7 消費社会と大衆文化	①アメリカ合衆国の大衆消費社会が、マスメディアを通して、生活や文化の平準化や画一化につながったことについて理解する。②日本でも大衆消費文化が流行し、新しい生活様式や価値観がとくに都市部を中心に広がったことについて理解する。③高等教育の拡充やマスメディアの発達が、大衆消費社会の発展や政治に与えた影響について理解する。	○	○

10	第4章 経済危機と第二次世界大戦	1 世界恐慌の時代	①アメリカ合衆国で大恐慌が発生した原因と対策、および世界への波及について理解する。②アメリカ合衆国のニューディール（政策）、およびその後のアメリカ国内の変化について理解する。③アメリカ合衆国の孤立主義、とくに中立法が内外に与えた影響について理解する。④昭和恐慌の原因と、とくに農村への影響、および政府の対策について理解する。	○	○	○
	2 ファシズムの伸長と共産主義	①イタリアやドイツでファシズムが伸長した背景とその特徴について、諸資料の比較・分析を通して考察する。②ファシズムの伸長によりヴェルサイユ体制が崩壊したこと、またそのなかでコミンテルンやソ連がファシズムに対してとった対応について理解する。③ドイツがイタリア・日本に加えてソ連とも連携した要因と背景について理解する。	○	○	○	○
	3 日中戦争への道	①中国国民党が南京国民政府を成立させた経緯と、国際社会、とくに日本や中国共産党との関係について理解する。②日本が満洲事変を引き起こした理由、および国内政治や国際関係に与えた影響について理解する。③日中戦争に至る背景と、2つの中国政府が成立するなかで戦争が長期化した理由について理解する。	○	○	○	○
	4 第二次世界大戦の展開	①第二次世界大戦が、大規模で凄惨かつ長期化した戦争となった背景とその情勢について理解する。②第二次世界大戦にアメリカ合衆国と日本がどのように関与したかについて、その背景や経緯をふまえて理解する。③第二次世界大戦中に戦後構想はどのように進められたのか、および大戦末期の連合国内部の軋轢や原子爆弾の投下が戦後世界にどのような影響をおよぼしたのかについて理解する。	○	○	○	○
	5 第二次世界大戦下の社会	①1930年代の日本で、ソ連やドイツのような計画経済や全体主義的な政治体制が構築された経緯を理解する。②民衆に対する無差別攻撃がおこなわれた理由を第二次世界大戦の特徴と関連させて考察し、組織的な虐殺・虐待などによる被害が深刻な人権侵害をもたらした影響について理解する。③戦争動員の間に構築されたシステムが戦後の制度や経済にどのような影響を与えたかを考察する。	○	○	○	○
	6 国際連合と国際経済体制	①国際連合の特徴と課題を国際連盟と比較しながら理解する。②第二次世界大戦後の世界経済秩序の形成過程と背景、その特徴を理解する。③新たな国際体制において、アメリカ合衆国がどのような役割を果たしたのかを理解する。④新たな国際体制は、日本の安全保障体制にどのような影響を与えたのかを理解する。	○	○	○	○
	7 占領と戦後改革	①占領と戦後改革について、ドイツと日本の事例を比較しながら、その特徴と展開を冷戦体制の文脈に位置づけて理解する。②日本国憲法の成立について、その経緯を理解するとともに、日本の政治や社会への影響を諸資料を用いて説明できるようにする。③戦後の政治や社会について、戦前からの連続や断絶の観点から理解する。	○	○	○	○
	8 冷戦の始まりと東アジア諸国の動向	①米・英・ソの関係はどのように変容し、またそのなかで世界の分断はどのように表面化し進んだのかに着目して、冷戦がどのように表面化したのか、またその特徴はどのようなものであったのかを理解する。②表面化した冷戦は国際社会にどのような影響を与えたのかを理解する。③冷戦は1940年代後半から50年代初頭にかけて、ヨーロッパやアジアにおいてどのような形で表面化したのかを理解する。	○	○	○	○
	9 日本の独立と日米安全保障条約	①第二次世界大戦後の国際秩序と関連づけながら、日本の国際社会への復帰の経緯を理解する。②冷戦の経緯から日本に期待された役割を、アメリカ合衆国がおこなった政策の意味を通じて考察する。③独立の経緯から、その後の日本に残された課題について理解する。	○	○	○	○
11	国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	1 対立・協調 2 統合・分化 3 平等・格差	国際秩序の変化や大衆化の歴史に存在した「対立・協調」「統合・分化」「平等・格差」に関わる課題について諸資料を活用して考察し、それらが現代的な諸課題の形成にどのように関わっているのかを理解する。	○	○	○
	第Ⅲ部 グローバル化と私たち	1 冷戦と国際関係 2 人と資本の移動 3 高度情報通信 4 食料と人口 5 資源・エネルギーと地球環境 6 感染症 7 多様な人々の共存	「冷戦と国際関係」「人と資本の移動」「高度情報通信」「食料と人口」「資源・エネルギーと地球環境」「感染症」「多様な人々の共存」についての諸資料を活用して、情報を読みとったりまとめたりする技能を習得し、人々の生活や社会のあり方がグローバル化にともない変化したことについて考察するための問いを表現する。	○	○	○
12	第5章 冷戦と世界経済	1 冷戦下の地域紛争と脱植民地化	①冷戦が第二次世界大戦後に独立・建国した国々にどのような影響をおよぼしたのかを理解する。②ベトナム戦争に対するアメリカ合衆国や韓国の姿勢や、日本政府の立場などを理解する。③冷戦に対するアジア・アフリカ諸国の姿勢を、第三勢力の結集や非同盟諸国への流れなどの事例を通じて理解する。	○	○	○
	2 東西両陣営の動向と1960年代の社会	①東西両陣営の社会がどのように変容したのかを、アメリカ合衆国と西ヨーロッパ諸国の関係およびソ連の東ヨーロッパ諸国に対する影響力などを通じて理解する。②1960年代、人々は何をめざしてどのような運動を展開したのかについて理解する。	○	○	○	
	3 軍拡競争から緊張緩和へ	①米・ソを中心とする宇宙開発競争や核軍拡の展開について、キューバ危機と部分的核実験禁止条約を事例として理解する。②反核・平和運動の始まりと展開について、日本の事例を中心に考察する。③デタント政策の展開と影響について理解する。④核拡散防止条約の背景と展開、および原子力発電所事故などの事例について考察する。⑤デタントが崩壊する過程について理解する。	○	○	○	
	4 地域連携の形成と展開	①西ヨーロッパ統合の背景と歴史的な過程について理解する。②東南アジアにおける連携と、ASEANの性格の変化について理解する。③アラブ・アフリカ・南北アメリカにおける連携の特徴について理解する。	○	○	○	○
	5 計画経済とその波及	①第三世界がアメリカ合衆国とソ連のそれぞれの社会をどのようにみていたのかについて理解する。②計画経済の特徴とその影響について理解する。③1960年代以降に明らかとなるソ連の不安定化について理解する。④中華人民共和国における社会主義体制の形成と大躍進運動について理解する。⑤プロレタリア文化大革命の展開と特徴について理解する。	○	○	○	○
	6 日本の高度経済成長	①日本の高度経済成長の要因について、世界経済や日本の社会構造、および政治との関わりから理解する。②保守政権が経済成長を重視するようになった経緯と結果、および人々のとらえ方について理解する。③日本の高度経済成長による生活や社会の変容について、新たに生じた課題などを理解する。	○	○	○	○
1						

		7 アジアのなかの戦後日本	①東アジア・東南アジアの国々との戦後処理や、国交正常化の経緯や影響について理解する。②日本と東アジア諸国の関係や沖縄をめぐる課題が、アメリカ合衆国の東アジア政策の変化と関わりをもって展開したことを、資料から理解する。	○	○	○
2	第6章 世界秩序の変容と日本	1 石油危機	①ドル＝ショックの背景と内容、および影響について理解する。②オイル＝ショックの背景と影響について理解する。③大きな政府路線の行き詰まりについて理解する。④日本における高度経済成長の終焉について理解する。⑤日本の安定成長と経済摩擦の展開について理解する。	○		○
		2 アジア諸地域の経済発展	①アジアNIESとASEANの成長と展開について理解する。②東南アジアの開発独裁の実態について理解する。③インドの政治と社会について理解する。④西アジア諸国と石油および資源ナショナリズムの展開について理解する。	○		○
		3 市場開放と経済の自由化	①新自由主義の特徴について、イギリスや日本の事例から理解する。②プラザ合意以後の貿易自由化の展開について理解する。③20世紀後半の環境問題について理解する。	○		○
		4 情報技術革命とグローバル化	①マイクロエレクトロニクス（ME）産業や情報技術（IT）革命とも呼ばれる情報通信技術の発展により、21世紀には高度情報化社会・知識基盤社会が到来したことを理解する。②高度情報社会が新たな課題を生み出し、従来の社会のあり方が変容をせまられていることを理解する。③現代的諸課題の形成や課題解決について歴史的経緯をもとに考察する。	○	○	○
		5 冷戦の終結とソ連の崩壊	①ソ連の改革と冷戦の終結について理解する。②東ヨーロッパにおける社会主義体制の解体について理解する。③ソ連の崩壊とロシア共和国の状況について理解する。	○		○
		6 現代のアジア・アフリカ・ラテンアメリカ	①東南アジア諸国の民主化の経過、および日本のPKO活動について理解する。②中国で改革・開放路線が採用され急速な経済発展が進み、東アジアにおける地位が変化したことを理解する。③韓国や台湾の民主化や、北朝鮮の体制、国際社会との関係について理解する。④高度経済成長終焉後の日本の状況について、成長する東アジア諸国との関連のなかで考察する。	○	○	○
		7 地域統合の拡大と変容	①各地域統合の経済的特徴について理解する。②E.U.の成立までの経過と課題について理解する。③世界での自由貿易協定（NAFTA・FTA・TPP・WTOなど）の内容と課題について理解する。④アジアでの自由貿易協定の動きと日本との関係を理解する。	○		○
		8 地域紛争と国際社会	①冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。②紛争の解決に国際機構や日本が果たした役割について理解する。③冷戦終結から現代に至るまでの諸課題の形成について整理し、今後の課題解決について考察する。	○	○	○
		9 現代と私たち	①歴史的経緯をふまえて、現代的な諸課題を理解する。②諸資料から現代的課題の所在や、それらの原因や背景を分析するための手立てを理解する。③現代的諸課題への問題意識をもち、問いを表現できるようにする。	○	○	○
	現代的な諸課題の形成と展望	①歴史的な見方や考え方を生かして、現代的な諸課題を考察する方法を理解する。②現在の課題解決や将来を構想するうえで、歴史的な見方・考え方を活用することが有効であることを理解する。③現代的諸課題に対して、歴史的な問いを立て、これまでの学習をもとに考察し、表現できるようにする。	○	○	○	
3						

令和8年度 2年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
地理歴史	歴史総合	2	2	普通科

使用教科書	副教材等
現代の歴史総合 みる・読みとく・考える (山川出版社)	新詳歴史総合 (浜島書店)

科目の目標
<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。</p>

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	<p>知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。</p> <p>技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。</p>
② 思考・判断・表現	<p>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>

評価方法
<p>各種テスト 授業ノート・プリント類の記述 提出物の取り組み状況</p>

学習計画

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	歴史の扉	①歴史と私たち 現代の私たちと旅	①身近な事柄が、時間的な推移や空間的な結びつきのなかで歴史と結びつきをもっていることを理解する。 ②私たちの生活に関わる制度や習慣について分析する際に、歴史的に構築されていることをふまえることが大切であることを理解する。	○		○
		②歴史の特質と資料 歴史資料とは何だろうか	①資料にもとづいて歴史が叙述されていることを理解する。 ②資料の性格をふまえ批判的に読みとることについて理解する。	○		○
	第I部 近代化と私たち	1 交通と貿易 2 移民 3 学校教育 4 労働と家族 5 産業と人口 6 権利意識と政治参加、国民の義務	「交通と貿易」「移民」「学校教育」「労働と家族」「産業と人口」「権利意識と政治参加、国民の義務」についての諸資料を活用して、情報を読みとったりまとめたりする技能を習得し、人々の生活や社会のあり方が近代化にともない変化したことについて考察するための問いを表現する。	○	○	○
	第1章 結びつく世界と日本の開国	1 18世紀の東アジアにおける社会と経済	①中国で手工業や技術の発展がみられるなか、輸送網と金融システムの展開によって活発な商取引がおこなわれていたことを理解する。②中国と日本の商品生産と流通を対比して、それぞれの経済発展や社会の姿容について考察する。③幕藩体制のしくみとその特徴について理解する。④大坂を中心とした遠隔地海運が発展し、各種の商品生産が発展したことを理解する。	○	○	○
		2 貿易が結んだ世界と日本	①アジア域内貿易がどのようにおこなわれていたかを理解する。②18世紀の中国がアジア域内貿易や貿易を通じて、欧米諸国とどのように結びついていたのかを理解する。③18世紀の日本がどこを結節点として、どのような形で世界と結びついていたのかを理解する。	○		○
		3 産業革命	①産業革命がなぜイギリスから始まったのかを理解する。②産業革命が当時の人々の生活や社会におよぼした変化を理解する。③産業革命がイギリス以外に普及した過程と、国によってその様相が異なっていたことを理解する。④産業革命によって加速した世界の一体化が、どのように進み、どのような影響をおよぼしたのかを理解する。	○		○
		4 中国の開港と日本の開国	①欧米諸国が東アジアに勢力を拡大した理由と、開港場の増加や貿易制限の緩和など中国の外交政策の転換について理解する。②日本でも「鎖国」政策の転換をせまられ、貿易を開始したことがその後の政治に与えた影響について理解する。③中国の開港・日本の開国と産業革命との関係、および従来の東アジア地域間の貿易や人・情報の流れの姿容について考察する。	○	○	○

5	第2章 国民国家と明治維新	1 市民革命	①アメリカ独立革命が1つの市民革命であったことを理解する。②フランス革命のなかでめざされた様々なことについて理解する。③ナポレオンの台頭とフランス革命の関係について理解する。④アメリカ独立革命とフランス革命が世界各地に与えた影響について理解する。	○	○	○
	2 国民国家とナショナリズム	①ヨーロッパ諸国が国家統一や改革へ乗り出した背景について理解する。②国民国家の特徴について身分制国家などと対比して理解する。③オスマン帝国とガージャール朝における改革の動きについて理解する。④独立後のアメリカ合衆国における国家統一の経緯について理解する。⑤独立後のラテンアメリカ諸国における社会の問題点を理解する。	○	○	○	
	3 明治維新	①日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などをもとに、立憲体制と国民国家の形成について理解する。②国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを考察する。	○	○	○	
	4 日本の産業革命	①産業革命の成功国との自由貿易にともなう、日本の産業界の変容と再編の過程について理解する。②近代産業発展の基盤となる政府の金融・貨幣制度の整備、および情報伝達や交通網の整備を含む殖産興業政策について理解する。③紡績業と製糸業の特徴と相違点、経済発展に果たした役割について理解するとともに、民間産業の成長と財閥の成立要因、および産業革命成立との関連について考察する。	○	○	○	
	5 帝国主義	①欧米諸国による植民地化の背景や経緯について理解する。②帝国主義が西アジアや中央アジアにどのような変化をおよぼしたのかについて理解する。③帝国主義が南アジアや東南アジアにどのような変化をおよぼしたのかについて理解する。	○	○	○	
	6 変容する東アジアの国際秩序	①明治維新後の日本が、外交交渉や国境の画定を通して、欧米諸国と対等な主権国家、国民国家の形成をめざしたことについて理解する。②朝鮮の近代化がどのような国際関係のもとで進み、日本や清・ロシアなどの周辺国がどのように対応したかについて理解する。③日清戦争の勝利が、朝鮮・日本・中国などの東アジアの国際秩序に与えた影響について考察する。	○	○	○	
	7 日露戦争と東アジアの変動	①日清戦争後の欧米列強や日本の勢力拡大に対する、清や朝鮮の政府や民衆の動向について理解する。②日露戦争後の日本の動向、および韓国の植民地化など東アジアをめぐる国際関係の変容について理解する。③日露戦争後、辛亥革命に至る中国の民族運動と近代化の動向について理解する。	○	○	○	
近代化と現代的な諸課題	1 開発・保全2 対立・協調3 自由・制限	近代化の歴史に存在した「開発・保全」「対立・協調」「自由・制限」に関する課題について諸資料を活用して考察し、それらが現代的な諸課題の形成にどのように関わっているのかについて理解する。	○	○	○	
6	第II部 国際秩序の変化や大衆化と私たち	1 20世紀の国際関係の緊密化2 アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭3 植民地の独立4 大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化5 生活様式の変化	「20世紀の国際関係の緊密化」「アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭」「植民地の独立」「大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化」「生活様式の変化」についての諸資料を活用して、情報を読みとったりまとめたりする技能を習得し、人々の生活や社会のあり方が大衆化にともない変化したことについて考察するための問いを表現する。	○	○	○
6	第3章 総力戦と社会運動	1 第一次世界大戦の展開	①第一次世界大戦がなぜ最初の「大戦」となったのかを理解する。②第一次世界大戦と日本の関わりについて理解する。③第一次世界大戦にアメリカ合衆国がどのように関わっていたのかを理解する。④第一次世界大戦にかかわられた秘密外交を含む外交関係の内容と、その問題点について理解する。⑤第一次世界大戦中に各国でとられた総力戦体制の内容とその影響について理解する。	○	○	○
	2 ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭	①ロシア革命の経過、および「土地に関する布告」「平和に関する布告」などからわかるボリシェヴィキ政権の性格を理解する。②コミンテルンの設立と、それに応じた諸外国の反応を理解する。③対ソ干渉戦争からの経済政策の変化、およびスターリン政権の性格について理解する。④第一次世界大戦後のアメリカ合衆国の国際的地位の上昇とアメリカ国内の考え方の差異について理解する。	○	○	○	
	3 ヴェルサイユ体制とワシントン体制	①ヴェルサイユ条約の内容（国際連盟の設立・ドイツの賠償）、およびその結果としてのドイツの状況について理解する。②ワシントン会議で締結された3つの条約（ワシントン海軍軍備制限条約・四カ国条約・九カ国条約）の内容、およびアメリカ合衆国の意図について理解する。③日本が協調外交を推進した意図および軍部の反発について理解する。	○	○	○	
	4 世界経済の変容と日本	①第一次世界大戦直前の日本で、貿易赤字など国際収支の危機が続いた理由について理解する。②第一次世界大戦がアジア市場に与えた影響、およびアメリカ合衆国が世界の経済的中心に移行したことについて理解する。③1920年代の日本では恐慌が連続して、そのなかで積極財政と緊縮財政の双方がおこなわれたことについて理解する。	○	○	○	
	5 アジアのナショナリズム	①第一次世界大戦後に高揚した朝鮮半島や中国のナショナリズムのあり方やその相違点について理解する。②ナショナリズムが高揚した時期の、中国やインドの経済的・社会的変容について理解する。③インドや西アジア諸地域のナショナリズムの特色とその展開について理解する。	○	○	○	
	6 大衆の政治参加	①欧米諸国において、工業化の進展により労働運動や社会主義運動が広がり、第一次世界大戦を機に参政権が拡大したことについて理解する。②日本では、大正デモクラシーの進展を受け、2度の憲政増進運動（護憲運動）を経て政党内閣が成立したことについて理解する。③大正期におきた様々な社会運動の特徴と変容、および政府の対策について理解する。	○	○	○	
	7 消費社会と大衆文化	①アメリカ合衆国の大衆消費社会が、マスメディアを通して、生活や文化の平準化や画一化につながったことについて理解する。②日本でも大衆消費文化が流行し、新しい生活様式や価値観がとくに都市部を中心に広がったことについて理解する。③高等教育の拡充やマスメディアの発達が、大衆消費社会の発展や政治に与えた影響について理解する。	○	○	○	

第4章 経済危機と第二次世界大戦	1 世界恐慌の時代	①アメリカ合衆国で大恐慌が発生した原因と対策、および世界への波及について理解する。②アメリカ合衆国のニューディール（政策）、およびその後のアメリカ国内の変化について理解する。③アメリカ合衆国の孤立主義、とくに中立法が内外に与えた影響について理解する。④昭和恐慌の原因と、とくに農村への影響、および政府の対策について理解する。	○		○
	2 ファシズムの伸長と共産主義	①イタリアやドイツでファシズムが伸長した背景とその特徴について、諸資料の比較・分析を通して考察する。②ファシズムの伸長によりヴェルサイユ体制が崩壊したこと、またそのなかでコミンテルンやソ連がファシズムに対してとった対応について理解する。③ドイツがイタリア・日本に加えてソ連とも連携した要因と背景について理解する。	○	○	○
	3 日中戦争への道	①中国国民党が南京国民政府を成立させた経緯と、国際社会、とくに日本や中国共産党との関係について理解する。②日本が満洲事変を引き起こした理由、および国内政治や国際関係に与えた影響について理解する。③日中戦争に至る背景と、2つの中国政府が成立するなかで戦争が長期化した理由について理解する。	○		○
	4 第二次世界大戦の展開	①第二次世界大戦が、大規模で凄惨かつ長期化した戦争となった背景とその情勢について理解する。②第二次世界大戦にアメリカ合衆国と日本がどのように関与したかについて、その背景や経緯をふまえて理解する。③第二次世界大戦中に戦後構想はどのように進められたのか、および大戦末期の連合国内部の軋轢や原子爆弾の投下が戦後世界にどのような影響をおよぼしたのかについて理解する。	○		○
	5 第二次世界大戦下の社会	①1930年代の日本で、ソ連やドイツのような計画経済や全体主義的な政治体制が構築された経緯を理解する。②民衆に対する無差別攻撃がおこなわれた理由を第二次世界大戦の特徴と関連させて考察し、組織的な虐殺・虐待などによる被害が深刻な人権侵害をもたらした影響について理解する。③戦争動員の際に構築されたシステムが戦後の制度や経済にどのような影響を与えたかを考察する。	○	○	○
	6 国際連合と国際経済体制	①国際連合の特徴と課題を国際連盟と比較しながら理解する。②第二次世界大戦後の世界経済秩序の形成過程と背景、その特徴を理解する。③新たな国際体制において、アメリカ合衆国がどのような役割を果たしたのかを理解する。④新たな国際体制は、日本の安全保障体制にどのような影響を与えたのかを理解する。	○		○
	7 占領と戦後改革	①占領と戦後改革について、ドイツと日本の事例を比較しながら、その特徴と展開を冷戦体制の文脈に位置づけて理解する。②日本国憲法の成立について、その経緯を理解するとともに、日本の政治や社会への影響を諸資料を用いて説明できるようにする。③戦後の政治や社会について、戦前からの連続や断絶の観点から理解する。	○	○	○
	8 冷戦の始まりと東アジア諸国の動向	①米・英・ソの関係はどのように変容し、またそのなかで世界の分断はどのように表面化し進んだのかに着目して、冷戦がどのように表面化したのか、またその特徴はどのようなものであったのかを理解する。②表面化した冷戦は国際社会にどのような影響を与えたのかを理解する。③冷戦は1940年代後半から50年代初頭にかけて、ヨーロッパやアジアにおいてどのような形で表面化したのかを理解する。	○		○
	9 日本の独立と日米安全保障条約	①第二次世界大戦後の国際秩序と関連づけながら、日本の国際社会への復帰の経緯を理解する。②冷戦の経緯から日本に期待された役割を、アメリカ合衆国がおこなった政策の意味を通じて考察する。③独立の経緯から、その後の日本に残された課題について理解する。	○	○	○
国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	1 対立・協調 2 統合・分化 3 平等・格差 国際秩序の変化や大衆化の歴史に存在した「対立・協調」「統合・分化」「平等・格差」に関わる課題について諸資料を活用して考察し、それらが現代的な諸課題の形成にどのように関わっているのかを理解する。	○	○	○	
第Ⅲ部 グローバル化と私たち	1 冷戦と国際関係 2 人と資本の移動 3 高度情報通信 4 食料と人口 5 資源・エネルギーと地球環境 6 感染症 7 多様な人々の共存 「冷戦と国際関係」「人と資本の移動」「高度情報通信」「食料と人口」「資源・エネルギーと地球環境」「感染症」「多様な人々の共存」についての諸資料を活用して、情報を読みとったりまとめたりする技能を習得し、人々の生活や社会のあり方がグローバル化にともない変化したことについて考察するための問いを表現する。	○	○	○	
第5章 冷戦と世界経済	1 冷戦下の地域紛争と脱植民地化	①冷戦が第二次世界大戦後に独立・建国した国々にどのような影響をおよぼしたのかを理解する。②ベトナム戦争に対するアメリカ合衆国や韓国の姿勢や、日本政府の立場などを理解する。③冷戦に対するアジア・アフリカ諸国の姿勢を、第三勢力の結集や非同盟諸国への流れなどの事例を通じて理解する。	○		○
	2 東西両陣営の動向と1960年代の社会	①東西両陣営の社会がどのように変容したのかを、アメリカ合衆国と西ヨーロッパ諸国の関係およびソ連の東ヨーロッパ諸国に対する影響力などを通じて理解する。②1960年代、人々は何をめざしてどのような運動を展開したのかについて理解する。	○		○
	3 軍拡競争から緊張緩和へ	①米・ソを中心とする宇宙開発競争や核軍拡の展開について、キューバ危機と部分的核実験禁止条約を事例として理解する。②反核・平和運動の始まりと展開について、日本の事例を中心に考察する。③デタント政策の展開と影響について理解する。④核拡散防止条約の背景と展開、および原子力発電所事故などの事例について考察する。⑤デタントが崩壊する過程について理解する。	○	○	○
	4 地域連携の形成と展開	①西ヨーロッパ統合の背景と歴史的な過程について理解する。②東南アジアにおける連携と、ASEANの性格の変化について理解する。③アラブ・アフリカ・南北アメリカにおける連携の特徴について理解する。	○		○
	5 計画経済とその波及	①第三世界がアメリカ合衆国とソ連のそれぞれの社会をどのようにみていたのかについて理解する。②計画経済の特徴とその影響について理解する。③1960年代以降に明らかとなるソ連の不安定化について理解する。④中華人民共和国における社会主義体制の形成と大躍進運動について理解する。⑤プロレタリア文化大革命の展開と特徴について理解する。	○		○
	6 日本の高度経済成長	①日本の高度経済成長の要因について、世界経済や日本の社会構造、および政治との関わりから理解する。②保守政権が経済成長を重視するようになった経緯と結果、および人々のとらえ方について理解する。③日本の高度経済成長による生活や社会の変容について、新たに生じた課題などを理解する。	○		○

		7 アジアのなかの戦後日本	①東アジア・東南アジアの国々との戦後処理や、国交正常化の経緯や影響について理解する。②日本と東アジア諸国の関係や沖縄をめぐる課題が、アメリカ合衆国の東アジア政策の変化と関わりをもって展開したことを、資料から理解する。	○	○	○
9	第6章 世界秩序の変容と日本	1 石油危機	①ドル＝ショックの背景と内容、および影響について理解する。②オイル＝ショックの背景と影響について理解する。③大きな政府路線の行き詰まりについて理解する。④日本における高度経済成長の終焉について理解する。⑤日本の安定成長と経済摩擦の展開について理解する。	○		○
		2 アジア諸地域の経済発展	①アジアNIESとASEANの成長と展開について理解する。②東南アジアの開発独裁の実態について理解する。③インドの政治と社会について理解する。④西アジア諸国と石油および資源ナショナリズムの展開について理解する。	○		○
		3 市場開放と経済の自由化	①新自由主義の特徴について、イギリスや日本の事例から理解する。②プラザ合意以後の貿易自由化の展開について理解する。③20世紀後半の環境問題について理解する。	○		○
		4 情報技術革命とグローバル化	①マイクロエレクトロニクス（ME）産業や情報技術（IT）革命とも呼ばれる情報通信技術の発展により、21世紀には高度情報化社会・知識基盤社会が到来したことを理解する。②高度情報社会が新たな課題を生み出し、従来の社会のあり方が変容をせまられていることを理解する。③現代的諸課題の形成や課題解決について歴史的経緯をもとに考察する。	○	○	○
		5 冷戦の終結とソ連の崩壊	①ソ連の改革と冷戦の終結について理解する。②東ヨーロッパにおける社会主義体制の解体について理解する。③ソ連の崩壊とロシア共和国の状況について理解する。	○		○
		6 現代のアジア・アフリカ・ラテンアメリカ	①東南アジア諸国の民主化の経過、および日本のPKO活動について理解する。②中国で改革・開放路線が採用され急速な経済発展が進み、東アジアにおける地位が変化したことを理解する。③韓国や台湾の民主化や、北朝鮮の体制、国際社会との関係について理解する。④高度経済成長終焉後の日本の状況について、成長する東アジア諸国との関連のなかで考察する。	○	○	○
		7 地域統合の拡大と変容	①各地域統合の経済的特徴について理解する。②EUの成立までの経過と課題について理解する。③世界での自由貿易協定（NAFTA・FTA・TPP・WTOなど）の内容と課題について理解する。④アジアでの自由貿易協定の動きと日本との関係を理解する。	○		○
		8 地域紛争と国際社会	①冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。②紛争の解決に国際機構や日本が果たした役割について理解する。③冷戦終結から現代に至るまでの諸課題の形成について整理し、今後の課題解決について考察する。	○	○	○
		9 現代と私たち	①歴史的経緯をふまえて、現代的な諸課題を理解する。②諸資料から現代的課題の所在や、それらの原因や背景を分析するための手立てを理解する。③現代的諸課題への問題意識をもち、問いを表現できるようにする。	○	○	○
	現代的な諸課題の形成と展望	①歴史的な見方や考え方を生かして、現代的な諸課題を考察する方法を理解する。②現在の課題解決や将来を構想するうえで、歴史的な見方・考え方を活用することが有効であることを理解する。③現代的諸課題に対して、歴史的な問いを立て、これまでの学習をもとに考察し、表現できるようにする。	○	○	○	

令和8年度 2年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
地理歴史	世界史探究	2	2	文系c選択

使用教科書	副教材等
世界史探究（実教出版）	世界史探究マイノート新課程版（実教出版） 新世界史研究ノート標準編（啓隆社） ニューステージ世界史詳覧（浜島書店）

科目の目標
<p>① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。</p> <p>② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	必修教科目である「歴史総合」の学習によって身につけた資質・能力を基に、世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、事象の意味や意義、特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を探究する技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	世界史を探究するための自分の学習状況を理解、把握している。
評価方法	
各種テスト 授業ノート・プリント類の記述 提出物の取り組み状況	

学習計画						
月	【単元名】	【使用教科書項目】	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
10	世界史へのまなざし	1. 地球の誕生と生命の進化	・世界史学習の導入として、地球の誕生以降の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を考察し表現する学習活動を通して、人類の歴史と地球環境との関わりを理解させる。			
		2. 日常生活からみる世界史—通信とコミュニケーション	・世界史学習の導入として、衣食住、家族、教育、余暇などの身の回りの諸事象から適切な事例を取り上げ、身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を考察し表現する活動を通して、私たちの日常生活が世界の歴史とつながっていることを理解させる。			
10	第1章 古代文明	1 農耕と牧畜のはじまり 2 オリент文明 3 インドス文明 4 中国文明	・オリент文明、インドス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解させる。 ・古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	○	○	○
10	第2章 東アジアと中央ユーラシア	1 春秋・戦国時代の変動 2 中国古代帝国と東アジア	・秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向などを基に、東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解させる。 ・東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、唐の統治体制と社会や文化の特色、唐と近隣諸国との関係、遊牧民の社会の特徵と周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	○	○	○
10		3 中央ユーラシアの国家形成 4 胡漢融合帝国の誕生		○	○	○
11	第3章 南アジアと東南アジア	1 インド古典文化の形成 2 古代の東南アジアと海のシルクロード	・仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家などを基に、南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解させる。 ・南アジアと東南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、南アジアと東南アジアにおける宗教や文化の特色、東南アジアと周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	○	○	○
11	第4章 西アジアと地中海周辺	1オリентの統一 2ギリシア文明 3ヘレニズム時代	・西アジアと地中海周辺の諸国家などを基に、西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解させる。 ・西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	○	○	○

令和8年度 2年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
地理歴史	日本史探究	2	2年	文系c選択

使用教科書	副教材等
詳説日本史（山川出版社）	新詳日本史（浜島書店） 新日本史史料集成（第一学習社） ゼミナール日本史（浜島書店）

科目の目標
<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>

評価の観点とその趣旨
<p>① 知識・技能</p> <p>我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p>
<p>② 思考・判断・表現</p> <p>我が国の歴史の展開に関わる諸事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。</p>
<p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に探究しようとしている。</p>
評価方法
<p>記述の点検、確認、分析 行動の観察、確認、分析 (定期テスト、ワークシート、課題レポートその他提出物、授業への取組状況、グループワークや発表等への取組状況等)</p>

学習計画				評価の観点		
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	①	②	③
10	第1部 原始・古代	1 文化の始まり	旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解している。	○		○
	●歴史資料と原始・古代の展望	2 農耕社会の成立	水稲耕作の開始・金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を理解し、弥生土器などの出土品から得られる情報を収集して読み取る技能を身に付けている。		○	○
		①古代社会と海外との交流	中国の歴史書の記事をもとに、資料から歴史に関わる情報を収集して読み取る技能を身に付けている。	○		○
		②木簡から古代国家を探る	木簡を資料として活用し、律令国家における文字文化の広がりについて主体的に考察しようとしている。	○	○	○
	第2章 古墳とヤマト政権	1 古墳文化の展開	国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。		○	○
2 飛鳥の朝廷		仏教の受容や遣隋使の派遣などの大陸との交流について、資料をもとに考察した結果を、根拠を示して表現している。	○		○	
11	第3章 律令国家の形成	1 律令国家への道	隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。	○		○
		2 平城京の時代	平城京の造営と奈良時代の政治の動向に着目して、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。		○	○
		3 律令国家の文化	盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察し、表現している。		○	○
		4 律令国家の変容	蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえて、中央における藤原北家の台頭、地方における土地支配体制の動揺について考察し、根拠を示して表現している。		○	○

12	第4章 貴族政治の展開	1 摂関政治	藤原北家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。	○		○
		2 国風文化	平安時代の政治の在り方と文化との関係を考察することを通じて、そのつながりを見出そうとしている。		○	○
		3 地方政治の展開と武士	文献資料を活用して、国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察し、根拠を示して表現している。		○	○
	第II部 中世	1 院政の始まり	貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解している。	○		○
1	第5章 院政と武士の躍進	2 院政と平氏政権	武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を考察し、歴史における土地の支配や所有がもつ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。		○	○
		●歴史資料と中世の展望	①絵画から中世社会を探る	複数の絵画資料に描かれている中世の都大路の様子を比較した結果について、時代を通観する問いを踏まえて考察し、仮説を表現している。		○
	第6章 武家政権の成立	1 鎌倉幕府の成立	諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。	○		○
2 武士の社会		承久の乱が幕府と朝廷との関係に与えた影響について、諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。	○		○	
3 モンゴル襲来と幕府の衰退		鎌倉時代の生産の発達と商品の流通、東アジア情勢や国内での貨幣経済の発達とその意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。		○	○	
4 鎌倉文化		公武関係の変化やユーラシアとの交流などに着目し、鎌倉時代の宗教や文化の特徴について、諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につけている。	○		○	
2	第7章 武家社会の成長	1 室町幕府の成立	鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球王国の成立などについて、諸資料から情報を収集して理解している。	○		○
		2 幕府の衰退と庶民と台頭	自治的な村の単位や一揆の組織が成立した要因と背景について、地理的な条件や流通など経済活動との関わりを多面的・多角的に考察し、表現している。		○	○
		3 室町文化	経済の進展や各地の都市や村の発達、東アジアとの交流などに着目して、室町時代における多様な文化の形成や融合について理解している。	○		○
		4 戦国大名の登場	守護大名と戦国大名の権力の相違点などについて諸資料から情報を読み取り、戦国時代の大名による領国経営の特徴を理解している。	○		○